

石 場 旅 館

- 1 文化財の種別 登録有形文化財（建造物）
- 2 名称及び員数 いし ばりよかん 石場旅館 1 棟
- 3 所在地 弘前市大字元寺町 5 5 番地
- 4 建築年代 明治 1 2 年頃（推定）逐次改修あり
- 5 登録基準 国土の歴史的景観に寄与しているもの
- 6 構造・形式 木造 2 階建、鉄板葺、建築面積 4 5 6 m²
- 7 所有者 石場 久子

8 創造、創始由緒及び沿革

創業者である石場久蔵は、30歳の頃に道路側の表部分に小間物屋と旅籠を兼ねた旅館業を営んだのが始まりで、本建物は明治12年頃に新築されたとされる。

久蔵は、明治19年（1886）に当時の駅伝取締所から駅伝宿舎としての木札を受けている。

明治22年（1889）の間取図に奥部分の建物が記載されている。

明治27年（1894）に弘前・青森間に鉄道が開通し、明治30年に陸軍第八師団が設置されている。明治29年の軍が発行した「大日本旅館」という冊子には石場旅館が掲載されており、また、「陸軍召集軍用旅館」という看板や皇室、政府関係の看板も遺っていることから、多くの関係者が宿泊したものと考えられる。

昭和15年頃に北西側に増築、昭和30年代に客の要望に合わせて現在の間取りに改修、現在の建物正面は、昭和45年に改装して黒塗りの付け柱や付け梁が白い漆喰壁の中に映える、城下町の建物の情緒を醸し出している。

9 現在の間取り

表部分

一階 東正面南寄に玄関があり、玄関南側がフロント、突当りは従業員室、奥の蔵の前を板敷廊下にして蔵南の厨房に繋がっている。

廊下を挟んで北側は納戸、居間そして西に折れる廊下が続き、太鼓橋を架けて奥の客室棟に繋がっている。西に折れた廊下突当りは庭の出入口となっている。

二階 正面縁側をそのまま残して、中廊下を東西に通し、南側に和室2部屋と洋室、北側に和室2部屋を設けている。

廊下突当り正面は1階に繋がる階段で、南側は蔵前の吹き抜け、北側は奥の客室棟への通路で、階段を付けた廊下で繋げている。

奥部分

一階 太鼓橋から繋がる廊下は西に延びて北に折れて中央を通り、西に増設された客室棟に行く渡り廊下に繋がって、左右に客室が並んでいる。手前部分は東と北に縁側が付き、大広間として利用されている。

奥部分の総二階の屋根が南に延びて蔵を取り込んでいる。蔵と廊下の間の手前に階段が付き、奥の物置と土間との間にも階段が付く。物置前の廊下は厨房や風呂場に繋がっている。蔵に続く屋根はさらに南に伸びて、厨房も取り込んでいる。

二階 一階と廊下の位置がほぼ重なるが、部屋割りは手前に部屋が3室、奥は12畳ほどの部屋、廊下向い南西角に1室配置される。

物置の上は手前が階段上がり位置に床板を広く取り、後は便所になっている。

10 特色

本建物は、小間物屋兼旅籠として、石場久蔵が明治12年頃に新築したと伝えられている。そのとおりとすれば、現在弘前における旅館建築として最古ものである。

そして開業後明治中頃を知る資料として、古図・木札・宿泊者看板等が残っており、当時としては規模の大きい建物であったと考えられる。

要人が宿泊の際は、庭を歩いて太鼓橋を渡ってすぐの奥部分階段を登り二階に宿泊したと伝えられるように、風情が残る建物となっている。

大正年間頃絵はがきの写真の縁側や高欄など外観から見た構造が内部に保存され、屋号の印のあるガラスも残っている。

明治19年当時の弘前駅伝取締所の資料や、明治22年他の間取り図・大正から昭和にかけて撮影の写真、「陸軍召集軍用旅舎」看板など、時代の背景や当地方の歴史を考えた上で建物とともに貴重な資料となっている。